YAMAHA

J

フロントサラウンドシステム

YAS-201 (YAS-CU201+NS-WSW40)

取扱説明書

Advanced Y·S·T

ご使用前に本書の「安全上のご注意」（16 ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■ 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

本書は下記のウェブサイトから PDF 版をダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

保証書別添付

目次

内容物を確認する 2
本製品でできること 2
サウンドバー / サブウーファーの各部名称 3
設置する 4
接続する 5
操作する 6
iPod やパソコンの曲を再生する 8
設定する 10
テレビのリモコンでサウンドバーを操作する（テレビリモコン学習機能） 10
サウンドバー経由でテレビを操作する
（テレビのリモコンでテレビを操作しにくい場合） 11
グループ ID を変更する 11
設定を初期化する 11
困ったときは 12
主な仕様 15
安全上のご注意 16

本書の記載について

- 本書はリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本書は iPod、iPhone、iPad を総称して「iPod」と表記しています。説明文に限定する記載がない場合、「iPod」という表記は iPod、iPhone および iPad を意味します。
- 本書で使用されている記号

ポイント

使用時の注意点や機能の制約が記載されています。

ヒント

知っておくと便利な補足情報が記載されています。

内容物を確認する

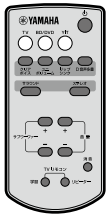
すべて揃っていることをお確かめください。



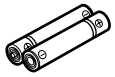
□ サウンドバー（YAS-CU201）



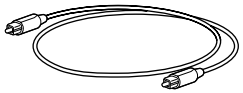
□ ワイヤレスサブウーファー（NS-WSW40）



□ リモコン



□ 単 4 乾電池（2 本）

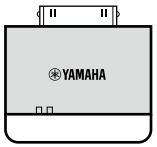


□ 光ファイバーケーブル（1.5m）



□ 取付用テンプレート

※サウンドバーを壁に設置する際に使用します。



□ トランスミッター（YIT-W12TX）



□ USB ケーブル（0.3m）

※トランスミッターとパソコンの接続に使用します。

本製品でできること

● AIR SURROUND XTREME（エア・サラウンド・エクストリーム）

定位感に優れた高品位なサラウンド再生をお楽しみいただけます（7 ページ）。

● AirWired（エアワイヤード）

サウンドバーとサブウーファーを無線で簡単に接続できます。無線の設定は一切必要ありません。さらに、付属のトランスミッターを使って iPod やパソコンの音楽も無線でお楽しみいただけます（8 ページ）。

● クリアボイス機能

ボタン 1 つの操作で、人の声（セリフやアナウンスなど）を聞き取りやすくできます（7 ページ）。

● ユニボリューム機能 UniVolume

番組や CM が切り替わるときの、音量差を自動的に補正できます（7 ページ）。

● テレビリモコン学習機能

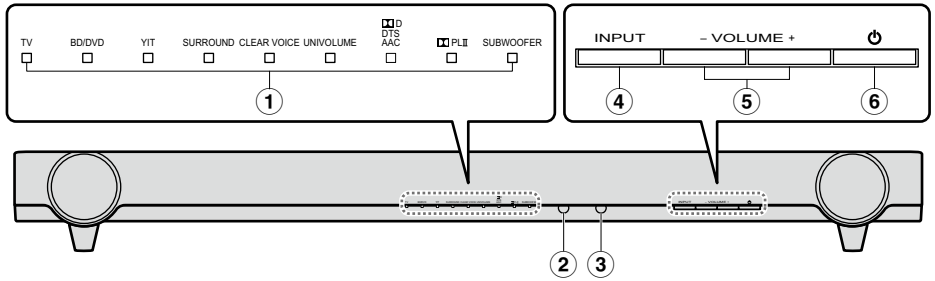
テレビのリモコンを使って、サウンドバーの電源や音量を操作できます（10 ページ）。

● テレビリモコンリピーター機能

テレビ本体のリモコン受光部がサウンドバーで隠れてしまいテレビをリモコンで操作しにくい場合に、サウンドバー経由でテレビのリモコン信号を転送して、テレビの操作を可能にします（11 ページ）。

サウンドバー / サブウーファーの各部名称

□ サウンドバー前面



① ランプ

サウンドバーの状態を表示します。
操作から 5 秒経過すると自動的に暗くなります。

② 本機リモコン受光部

本機リモコンの赤外線信号を受信します（6 ページ）。

③ テレビリモコン受光部

テレビリモコンリピーター機能が有効な場合に、テレビリモコンの赤外線信号を受信します（11 ページ）。

④ INPUT（インプット）ボタン

再生する機器を選びます（6 ページ）。

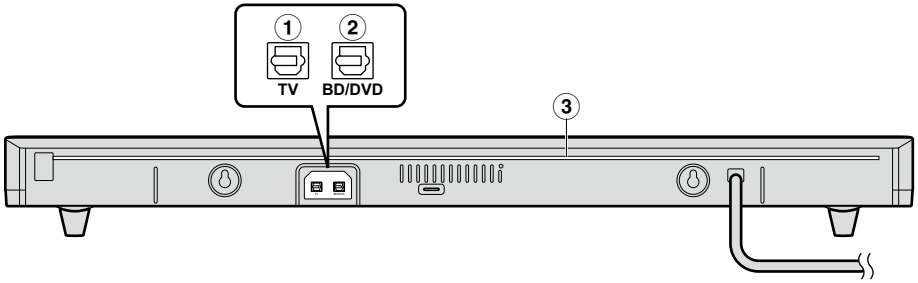
⑤ VOLUME（ボリューム）ボタン

音量を調節します（6 ページ）。

⑥ ⏻（電源）ボタン

サウンドバーの電源を入 / 切します（7 ページ）。

□ サウンドバー背面



① TV 入力端子

光ファイバーケーブルを使ってテレビを接続します（5 ページ）。

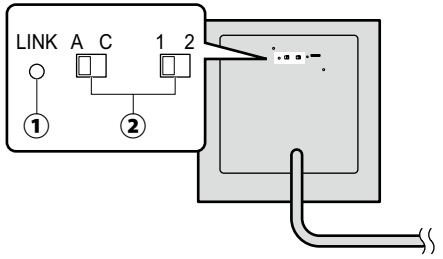
② BD/DVD 入入力端子

光ファイバーケーブルを使って再生機器（BD レコーダーなど）を接続します（5 ページ）。

③ テレビリモコンリピーター

テレビリモコン受光部で受信したリモコン信号をテレビに送信します（11 ページ）。

□ サブウーファー背面



① LINK（リンク）ランプ

無線接続状態を表示します（点灯：接続確立、点滅：接続準備中）。

② グループ ID スイッチ

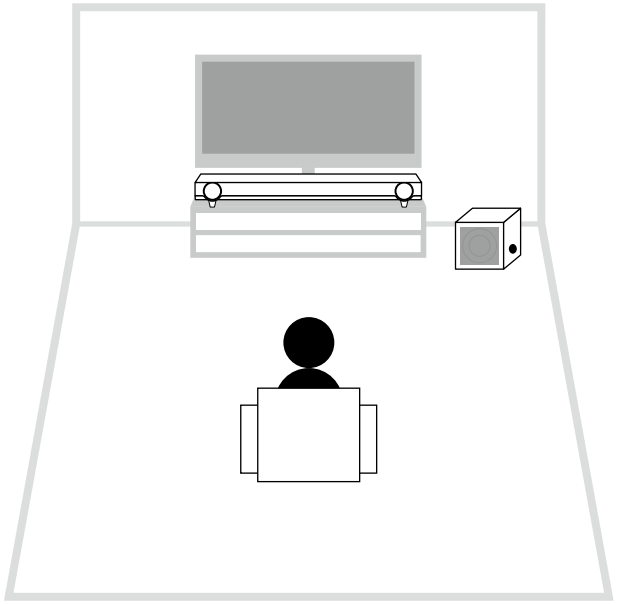
無線接続のグループ ID を設定します（11 ページ）。

ヒント

- サブウーファーの電源は、サウンドバーの電源操作（入 / 切）にしたがって自動的に切り替わります。サブウーファーの電源が入っているときは、LINK ランプが点灯します。

設置する

サウンドバーをテレビ台の上などに設置します。
サブウーファーをサウンドバーの左右どちらかの外側に設置します。壁の反射を防ぐために、サブウーファー正面を少し内側に向けてください。

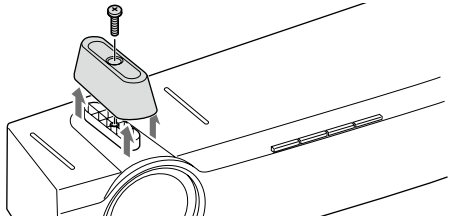


ご注意
- サウンドバーと BD レコーダーなどを直接重ねないでください。振動により機器が故障することがあります。
- サウンドバー前面のサランネットには手をかけないでください。
- テレビを傷つけないように、サウンドバーとテレビを 5cm 以上離して設置してください。
- サウンドバーと外部機器（テレビなど）の接続を考慮のうえ設置場所を決めてください。設置場所によっては、先に接続した方が良い場合があります。

□ 脚部を取り外す場合

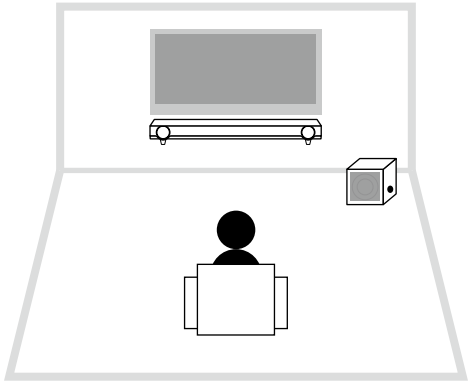
サウンドバーでテレビ画面の一部やリモコン受光部が隠れてしまう場合は、サウンドバーの脚部（18mm）を取り外してください。

ヒント
- テレビを操作しにくい場合は、テレビリモコンリピーター機能（11 ページ）をご利用ください。



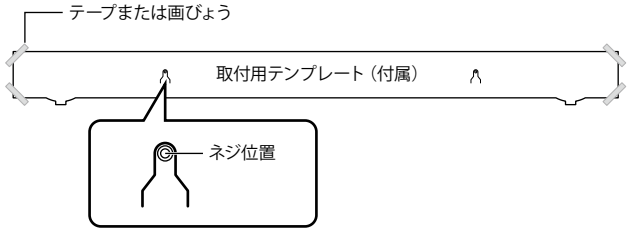
ポイント
- 取り外した脚部やネジは大切に保管してください。

□ 壁に取り付ける場合

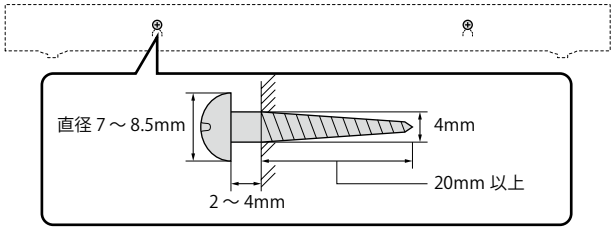


ご注意
- 取付工事は専門業者または販売店に依頼してください。お客様自身で作業しないでください。設置方法を間違えると、サウンドバーが落下し、けがの原因になります。
- しっくいやベニヤ板のような弱い材質の壁には設置しないでください。本体が落下する原因になります。
- 市販のネジは、規定サイズ（手順 2 参照）で十分な強度があるものをご用意ください。くぎや両面テープ、規定サイズ以外のネジを使用すると本体が落下する原因になります。

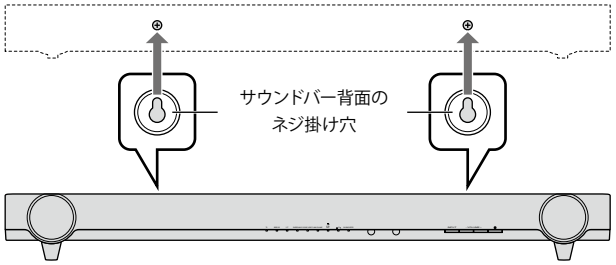
1　取付用テンプレートを壁に仮付けし、ネジ位置の印をつける。



2　取付用テンプレートを壁から取り外し、壁（印の位置）に市販のネジを取り付ける。



3　サウンドバーをネジに掛けて設置する。

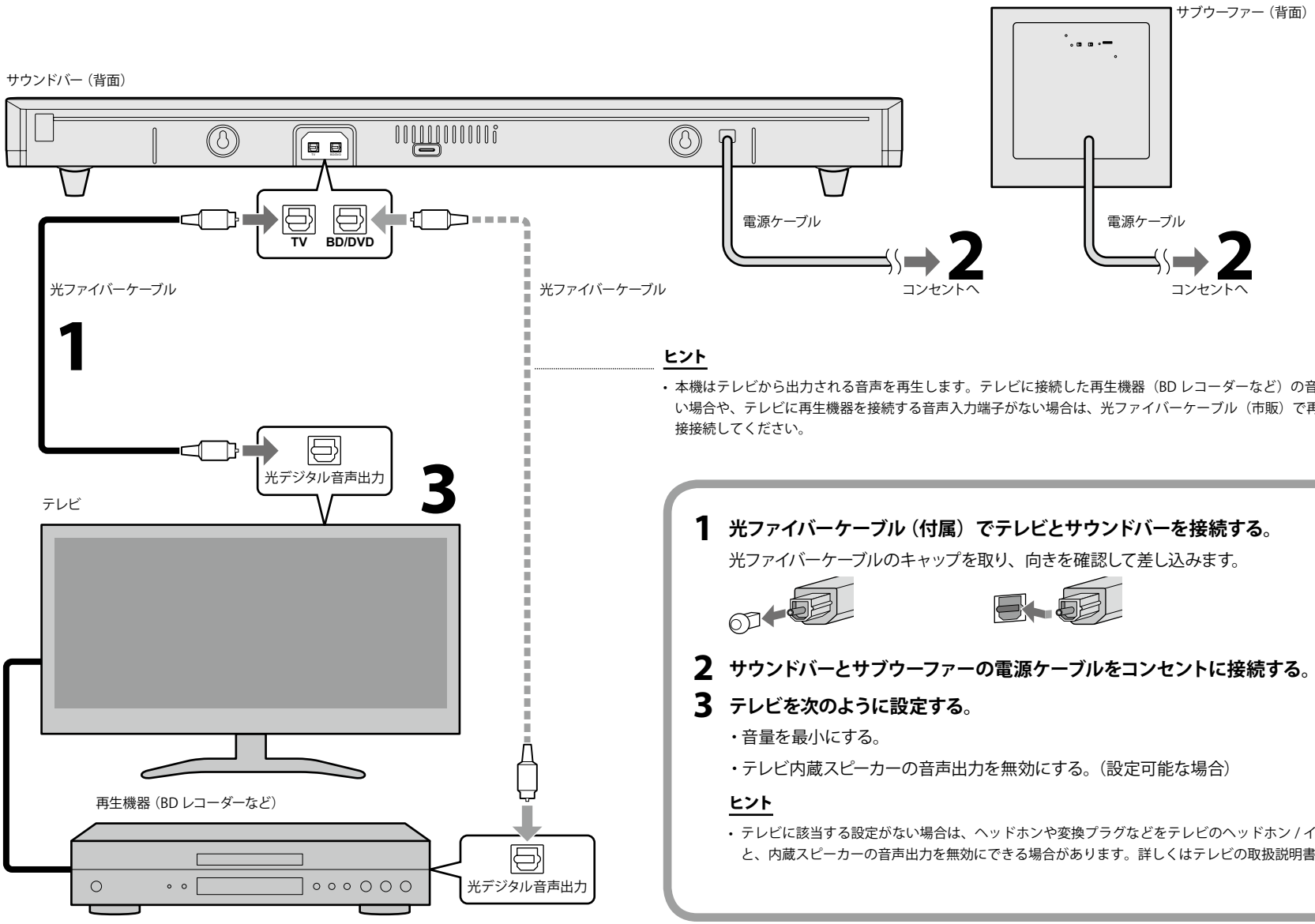


ご注意
- ケーブル類は必ず固定してください。誤って手や足に引っ掛かると、サウンドバーが落下する原因になります。
- 設置後、サウンドバーがしっかりと固定されていることを確認してください。誤った設置により起きた事故について、弊社は責任を負いかねますのでご了承ください。

接続する

ポイント

- 接続する前に、サウンドバーとサブウーファーの電源ケーブルをコンセントから外してください。
- ケーブルプラグを端子に差し込む際に、強い衝撃をあたえないようにしてください。破損の原因になります。



ヒント

- 本機はテレビから出力される音声を再生します。テレビに接続した再生機器（BD レコーダーなど）の音声がテレビから出力されない場合や、テレビに再生機器を接続する音声入力端子がない場合は、光ファイバーケーブル（市販）で再生機器とサウンドバーを直接接続してください。

1 光ファイバーケーブル（付属）でテレビとサウンドバーを接続する。

光ファイバーケーブルのキャップを取り、向きを確認して差し込みます。

2 サウンドバーとサブウーファーの電源ケーブルをコンセントに接続する。

3 テレビを次のように設定する。

・音量を最小にする。

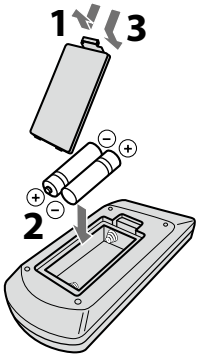
・テレビ内蔵スピーカーの音声出力を無効にする。（設定可能な場合）

ヒント

- テレビに該当する設定がない場合は、ヘッドホンや変換プラグなどをテレビのヘッドホン / イヤホン端子に接続すると、内蔵スピーカーの音声出力を無効にできる場合があります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

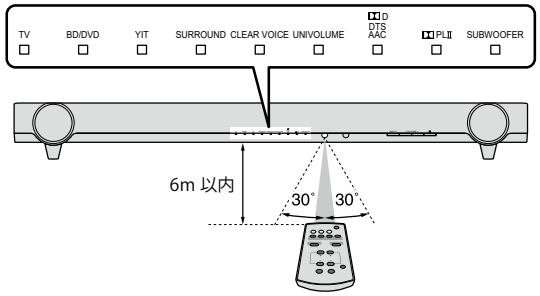
操作する

□ リモコンに電池を入れる



□ リモコンの操作範囲

サウンドバーのリモコン受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



ヒント

- リモコンで操作中、サウンドバー前面のランプでサウンドバーの状態（無線接続、音量など）を確認できます。

リモコン信号送信部

赤外線信号を送信します。

入力ボタン

再生する機器を選びます。
TV ボタン ..... テレビの音声
BD/DVD ボタン..... BD/DVD 端子に接続した再生機器の音声
YIT ボタン ..... トランスミッターに接続した機器の音声

（例：TV 選択時）

TV　BD/DVD　YIT

ヒント

- テレビに接続した再生機器の音声を再生する場合や、再生機器の映像をテレビで見る場合は、テレビの入力で再生機器を接続している端子を選んでください。
- トランスミッター使用時の再生については、「iPod やパソコンの曲を再生する」（8 ページ）をご覧ください。

サブウーファーボタン

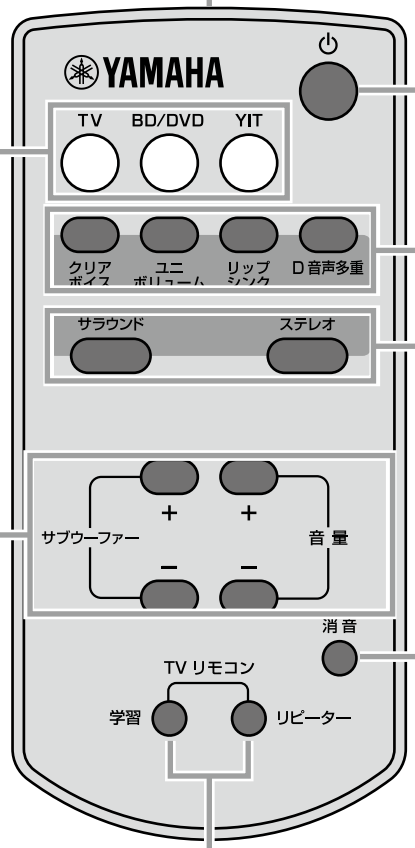
サブウーファーの音量を調節します。

音量が下がる（−）⟷ 音量が上がる（+）

音量ボタン

サウンドバーの音量を調節します。

音量が下がる（−）⟷ 音量が上がる（+）



学習ボタン

テレビリモコン学習機能の設定をする際に押します（10 ページ）。

リピーターボタン

テレビリモコンリピーター機能を有効 / 無効にします（11 ページ）。

⏻（電源）ボタン

サウンドバーの電源を入 / 切します。

ヒント

- サウンドバーの電源を入れると、サウンドバーとサブウーファーが無線で接続され、サウンドバー前面の SUBWOOFER ランプが点灯します。点灯しない（点滅が続く）場合は、グループ ID を変更してください（11 ページ）。

SUBWOOFER 点滅（接続準備中）

SUBWOOFER 点灯（接続確立）

サラウンドボタン / ステレオボタン

サラウンド再生、ステレオ再生（2ch ステレオ）を切り替えます。サラウンド再生を選ぶと、ヤマハ音場創生技術 AIR SURROUND XTREME（エア・サラウンド・エクストリーム）により、臨場感のある音響効果を楽しむことができます。

SURROUND 点灯（サラウンド再生）

SURROUND 消灯（ステレオ再生）

ヒント

- 2ch ステレオ信号をサラウンドで再生しているときは、DD PLII ランプが点灯します。

DD PLII 点灯（ドルビープロロジック II）

消音ボタン

消音します。もう一度押すと消音を解除します。

□ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ ☼ □

点滅（消音中）

クリアボイスボタン

クリアボイスを有効 / 無効にします。クリアボイスを使用すると、映画やドラマのセリフ、ニュースやスポーツ中継のアナウンスなど、人の声が聞き取りやすくなります。

CLEAR VOICE 点灯（クリアボイスが有効）

ユニボリュームボタン

ユニボリュームを有効 / 無効にします。ユニボリュームを使用すると、チャンネル変更や番組 /CM の切り替わりなど、テレビ視聴時に生じる音量差を自動的に補正できます。

UNI VOLUME 点灯（ユニボリュームが有効）

ヒント

- 入力が「YIT」のときは、ユニボリュームが無効になります。

リップシンクボタン

映像と音声がずれている場合に、映像を見ながら音（セリフなど）が口の動きに一致するように調整します。
以下の手順で調整してください。

1 リップシンクボタンを 3 秒以上押す。
左端のランプが点滅します。

☼ □ □ □ □ □ □ □ □

2 サブウーファーボタンで音声の出力タイミングを調整する。

☼ □ ■ □ □ □ □ □ □

音声が速くなる（−） ⟷ 音声が遅くなる（+）

3 調整が終わったら、リップシンクボタンを押す。

ヒント

- 最後の操作から 20 秒経過すると、自動的に調整モードが終了します。
- 入力が「YIT」のときは効果がありません。

D 音声多重ボタン

地上デジタル /BS デジタル放送（モノラル多重音声）の主音声 / 副音声を切り替えます。ボタン操作時に点滅するランプの色で、選択中の音声を確認できます。

DD DTS ☼ 緑（主音声）、赤（副音声）、オレンジ（主音声+副音声）

□ デコーダー表示

サウンドバーは以下の音声信号に対応しています。サウンドバーに音声が入力されているときは、ランプの色で信号の種類を確認できます。

DD DTS AAC ■ 緑（ドルビーデジタル）、赤（DTS デジタルサラウンド）、オレンジ（MPEG2 AAC）

DD DTS AAC □ 消灯（PCM）

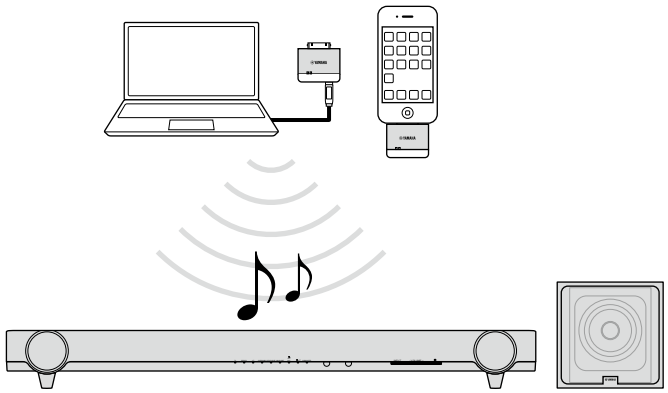
□ 節電機能

サウンドバーには、節電機能が備わっています。以下のいずれかの条件で自動的に電源が切れます。

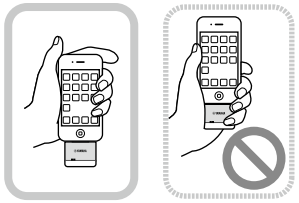
- 操作がない状態で 12 時間経過
- 音声入力、および操作がない状態で 1 時間経過
- トランスミッターとの無線接続切断後、操作がない状態で 10 秒経過

iPod やパソコンの曲を再生する

付属のトランスミッター（YIT-W12TX）を使って、iPod やパソコンに保存されている曲を再生します。



YIT-W12TX は、iPod およびパソコン用のワイヤレストランスミッターです。ヤマハ「AirWired」技術により、サウンドバーと無線で接続して、iPod やパソコンの音声を再生できます。
また、付属の USB ケーブルを使ってパソコンに接続することで、トランスミッターに接続した iPod の充電や長時間の再生が可能になります。
対応している iPod やパソコン（オペレーティングシステム）については、「主な仕様」（15 ページ）をご覧ください。



ご注意

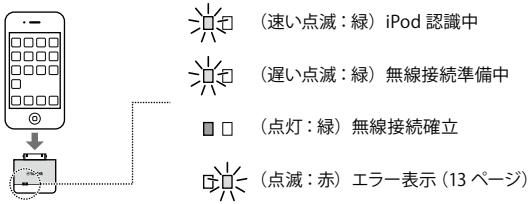
- トランスミッター接続時に iPod を操作する場合は、左図のようにお持ちください。トランスミッター左下部の内蔵アンテナが手で隠れないようにしてください。無線信号が弱くなることがあります。

iPod の曲を再生する

1 トランスミッター（9 ページ）とサウンドバー（11 ページ）のグループ ID が一致していることを確認する。

2 トランスミッターに iPod を接続する。

サウンドバーと無線で接続されます。



3 iPod で曲の再生を始める。

サウンドバーの入力がトランスミッター（YIT）に切り替わり、iPod の音声が出力されます。

ポイント

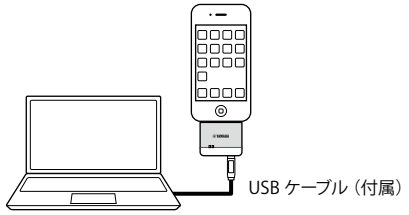
- iPod をトランスミッターから取り外す際は、ゆっくり上方に引き抜いてください。
- トランスミッターは iPod のバッテリーを電源として動作します。iPod のバッテリー残量がなくなった場合は、iPod を充電してください。また、トランスミッターを使わないときは、iPod をトランスミッターから取り外してください。接続したままにすると、iPod のバッテリー消費が早くなる場合があります。

ヒント

- サウンドバーの電源が切れているときに iPod で再生を始めると、サウンドバーの電源が自動的に入ります。
- iPod の再生を停止してスリープ状態になると、サウンドバーとの無線接続が自動的に切断されます。その後、サウンドバーの電源が切れます。
- サウンドバーと iPod のどちらを操作しても音量を調節できます。（サウンドバーと iPod の音量は同期します。）
- ビデオを再生する場合は、映像は iPod の画面でお楽しみください。

□ iPod の充電

付属の USB ケーブルを使って、トランスミッターをパソコンに接続すると iPod を充電できます。
充電中に、iPod の音声をサウンドバーで再生することもできます。



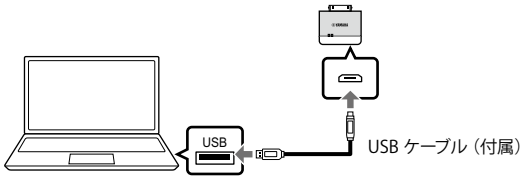
ポイント

- パソコンの USB 端子（電源供給能力）によっては、充電できない場合があります。
- iPod によっては、パソコンに接続するとデータ同期が始まることがあります。同期中は iPod の音声をサウンドバーで再生できません。同期が完了するまで待つか、必要に応じて同期を中止してください。

パソコンの曲を再生する

1 トランスミッター（9 ページ）とサウンドバー（11 ページ）のグループ ID（C1 または C2）が一致していることを確認する。

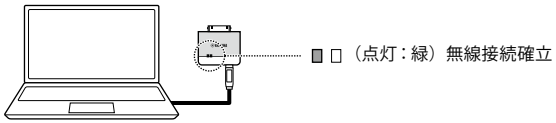
2 付属の USB ケーブルでトランスミッターとパソコンを接続する。



USB ドライバーがパソコンに自動的にインストールされます（初回のみ）。

3 パソコンで曲の再生を始める。

サウンドバーと無線で接続されます。その後、サウンドバーの入力がトランスミッター（YIT）に切り替わり、パソコンの音声が出力されます。



ポイント

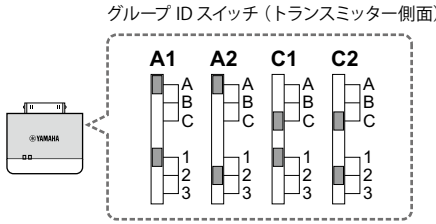
- サウンドバーの電源を切るか、入力を YIT 以外に切り替えると、トランスミッターの動作が自動的に停止します。パソコンの音声をもう一度再生する場合は、トランスミッターをパソコンから取り外し、再度接続してください。
- パソコンの音声がサウンドバーから出力されない場合、パソコンの音声出力デバイスとしてトランスミッターが選択されていない可能性があります。パソコンの音声出力設定をご確認ください。詳しくはパソコンの取扱説明書をご覧ください。
- トランスミッターに iPod が接続されているときは、パソコンの音声をサウンドバーで再生できません。
- トランスミッターとパソコンの接続に USB ハブを使用しないでください。

ヒント

- サウンドバーの電源が切れているときにパソコンで再生を始めると、サウンドバーの電源が自動的に入ります。
- パソコンの再生を停止すると、サウンドバーとの無線接続が自動的に切断されます。その後、サウンドバーの電源が切れます。
- ビデオを再生する場合は、映像はパソコンの画面でお楽しみください。

トランスミッターのグループ ID を変更する

AirWired 対応ヤマハ製機器どうしを無線で接続するには、グループ ID を一致させる必要があります。サウンドバーのグループ ID（11 ページ）を変更した場合は、トランスミッターも同じグループ ID に設定してください。



ID	特長
A1（初期設定）、A2、A3*、B1*、B2*、B3*	音声の遅れが C1 ～ C3 より小さいです。
C1、C2、C3*	パソコンの音声を再生する場合は、C1 または C2 に設定します。

* YAS-201 との接続には使用しません。



ポイント

- グループ ID を変更するときは、直径 1mm 程度の先端がとがっていない金属の棒でスイッチを動かしてください。スイッチを動かすときに、けがをしないように注意してください。

トランスミッターのファームウェアを更新する

機能の追加や不具合の改善に応じて、ファームウェアが更新されることがあります。ファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。定期的に弊社ホームページをご確認ください。

設定する

テレビのリモコンでサウンドバーを操作する(テレビリモコン学習機能)

テレビのリモコン信号をサウンドバーに学習させて、テレビのリモコンでサウンドバーの電源操作や音量調節を可能にします。

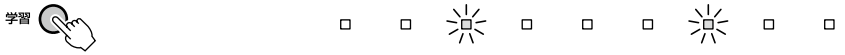
ポイント

- この機能は、テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ利用できます。
- サウンドバーの設置や設定状況により、テレビのリモコンを操作した際に、サウンドバーとテレビが同時に動作する場合があります。

1 **テレビとサウンドバーの電源を切る。**

2 **本機リモコンの学習ボタンを 3 秒以上押し、学習モードに入る。**

学習モード中は、サウンドバー前面のランプが以下のように点滅します。

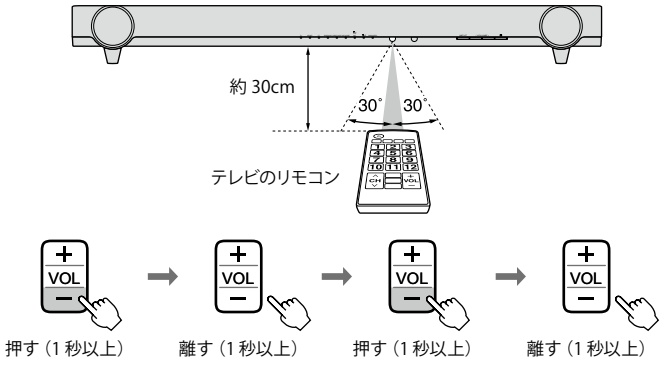


3 **音量 (−) ボタンを学習させる。**

3-1 **サウンドバー前面の VOLUME (−) ボタンを押す。**



3-2 **テレビのリモコンを本機リモコン受光部に向け、音量 (−) ボタンを 1 秒以上押して離す操作を 2 〜 3 回繰り返す**

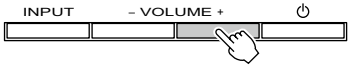


結果	音の回数	ランプ
学習成功	1 回	点灯
学習失敗	2 回	点滅

※ 3-1 からやり直してください。

4 **音量 (+) ボタンを学習させる。**

4-1 **サウンドバー前面の VOLUME (+) ボタンを押す。**



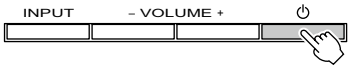
4-2 **テレビのリモコンを本機リモコン受光部に向け、音量 (+) ボタンを 1 秒以上押して離す操作を 2 〜 3 回繰り返す。**

結果	音の回数	ランプ
学習成功	1 回	点灯
学習失敗	2 回	点滅

※ 4-1 からやり直してください。

5 **電源ボタンを学習させる。**

5-1 **サウンドバー前面の ⏻ (電源) ボタンを押す。**



5-2 **テレビのリモコンを本機リモコン受光部に向け、電源ボタンを 1 秒以上押して離す操作を 2 〜 3 回繰り返す。**

結果	音の回数	ランプ
学習成功	1 回	点灯
学習失敗	2 回	点滅

※ 5-1 からやり直してください。

6 **学習が終わったら、本機リモコンの学習ボタンまたは ⏻ (電源) ボタンを押す。**

これで設定完了です。テレビリモコンの電源ボタンや音量ボタンでサウンドバーを操作できます。

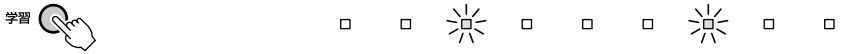
ヒント

- 最後の操作から 5 分経過すると、自動的に学習モードが終了します。
- テレビの音量を最小に設定してお使いください。テレビのリモコンでサウンドバーの音量を上げると、テレビの音量も上がってしまう場合があります。その場合は、「接続する」(5 ページ) の手順 3 にしたがってテレビを設定してください。

学習した機能をすべて消去する

1 本機リモコンの学習ボタンを 3 秒以上押し、学習モードに入る。

学習モード中は、サウンドバー前面のランプが以下のように点滅します。



2 サウンドバー前面の INPUT ボタンを 3 秒以上押す。



消去が完了すると、音が 3 回鳴ります。

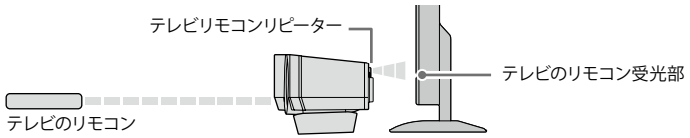
3 本機リモコンの学習ボタンまたは ⏻（電源）ボタンを押す。

サウンドバー経由でテレビを操作する（テレビのリモコンでテレビを操作しにくい場合）

テレビリモコンリピーター機能を使用すると、サウンドバー前面のテレビリモコン受光部で受信したテレビリモコン信号を、背面のテレビリモコンリピーターから送信できます。サウンドバーでテレビのリモコン受光部が隠れてしまい、テレビを操作しにくい場合などにご利用ください。

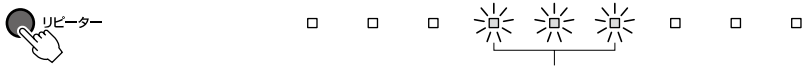
ポイント

- この機能は、テレビのリモコンが赤外線信号を使用している場合のみ利用できます。



1 サウンドバーの電源を入れる。

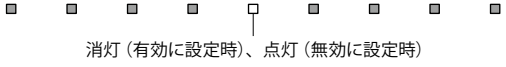
2 本機リモコンのリピーターボタンを 3 秒以上押して、テレビリモコンリピーター機能を有効 / 無効にする。



これで設定完了です。テレビリモコンリピーター機能が有効なときは、サウンドバー経由でテレビのリモコン操作が可能になります。

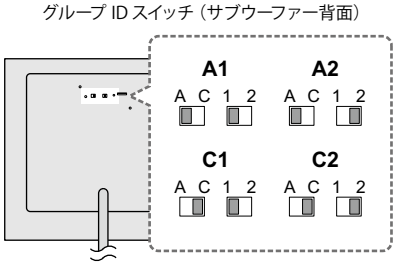
ヒント

- 初期設定では無効になっています。
- テレビリモコン学習機能で音量（+）ボタンを学習させた場合（10 ページ）、テレビのリモコンでサウンドバーの音量を上げると、テレビの音量も上がってしまう場合があります。その場合は、「接続する」（5 ページ）の手順 3 にしたがってテレビを設定してください。
- サウンドバーの電源を入れたときに、中央のランプでテレビリモコンリピーター機能の設定状態を確認できます。



グループ ID を変更する

AirWired 対応ヤマハ製機器どうしを無線で接続するには、グループ ID を一致させる必要があります。サウンドバーとサブウーファーのグループ ID を変更したい場合は、サブウーファーのグループ ID スイッチで設定します。サブウーファーでグループ ID を変更すると、電源を入れたときにサウンドバーにも同じグループ ID が設定されます。



ポイント

- サウンドバーとサブウーファーが無線で接続されない場合は、「困ったときは」の「サブウーファーから音が出ない」（12 ページ）をご覧ください。
- 別の AirWired 対応ヤマハ製機器（トランスミッターなど）と接続する場合は、該当機器のグループ ID をサウンドバーとサブウーファーの接続に使用しているグループ ID とあわせてください。
- トランスミッターを使用している場合は、グループ ID を変更する前に iPod やパソコンをトランスミッターから取り外してください。グループ ID を変更後にサウンドバーとサブウーファーの無線接続を確認してから、iPod やパソコンをトランスミッターに接続してください。

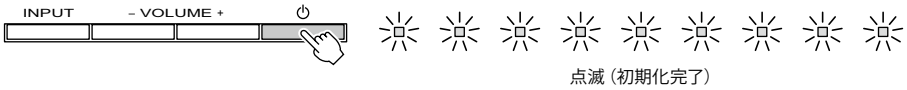
ID	特長
A1（初期設定）、A2	音声の遅れが C1 および C2 より小さいです。
C1、C2	パソコンの音声を再生する場合（9 ページ）は、C1 または C2 に設定します。

設定を初期化する

サウンドバーの設定をすべて初期化します。サウンドバーが正常に動作しない場合など、初期化すると解決することがあります。

1 サウンドバーの電源を切る。

2 サウンドバー前面の ⏻（電源）ボタンを 3 秒以上押す。



困ったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記をご確認ください。
対処しても正常に動作しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。
最初に以下の点を確認してください。

① **サウンドバー、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源プラグが AC コンセントにしっかりと接続されている。**

② **サウンドバー、テレビ、再生機器（BD レコーダーなど）の電源が入っている。**

③ **各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。**

□ 電源 / 動作全般

症状	原因	対策
電源が突然切れる	節電機能により電源が切れた。 以下のいずれかの条件で自動的に電源が切れます。 - 操作がない状態で 12 時間経過 - 音声入力、および操作がない状態で 1 時間経過 - トランスミッターとの無線接続切断後、操作がない状態で 10 秒経過	—
	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	サウンドバー前面の ⏻（電源）ボタンを 10 秒以上押して再起動してください。 （それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。）
	保護回路が作動した。 （この場合、サウンドバー前面の TV ランプ、BD/DVD ランプ、YIT ランプのいずれかが電源が切れるまで点滅します。）	ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
サウンドバーが正常に動作しない	外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。	サウンドバー前面の ⏻（電源）ボタンを 10 秒以上押して再起動してください。 （それでも解決しない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、接続し直してください。）
操作をしていないのにサウンドバーが動作する	近くで、別の AirWired 対応ヤマハ製機器が使用されている。	グループ ID を変更してください（11 ページ）。
テレビの 3D メガネが機能しない	サウンドバーがテレビの 3D メガネ用発信部を隠している。	テレビの 3D メガネ発信部の位置を確認し、発信部が隠れないようにサウンドバーを移動してください。 必要に応じて、サウンドバーの脚部を取り外してください（4 ページ）。

□ 音声

症状	原因	対策
音が出ない	音量が小さい。	音量を上げてください（6 ページ）。
	消音されている。	消音を解除してください（7 ページ）。
	再生したい入力が選ばれていない。	正しい入力を選んでください（6 ページ）。
サブウーファーから音が出ない	サブウーファーの音量が小さい。	サブウーファーの音量を上げてください（6 ページ）。
	再生している音声にサブウーファーチャンネルの信号や低音信号が含まれていない。	—
	サウンドバーとサブウーファーが無線で接続されていない。 （サウンドバー前面の SUBWOOFER ランプが点灯しない。）	サブウーファーの位置を調整してください。周囲に 2.4GHz 帯を使用している機器（電子レンジ、コードレス電話、Wi-Fi 機器など）がある場合は、該当機器をサウンドバーおよびサブウーファーから離してください。
	サウンドバーとサブウーファーのグループ ID が異なっているため、無線で接続されていない。 （サウンドバー前面の SUBWOOFER ランプが点灯しているのに、サブウーファーの LINK ランプが点灯しない。）	サウンドバー前面の INPUT ボタンを TV ランプが点滅するまで押し続けて、グループ ID を更新してください。
サウンドバーを使用していないのにサブウーファーから音が出る	近くで、別の AirWired 対応ヤマハ製機器が使用されている。	グループ ID を変更してください（11 ページ）。
電源を入れ直すと音量が下がる	音量自動調節機能により音量が下がった。 突然大音量が出力されるのを防ぐため、音量が大きい状態で電源を切った場合、次回電源を入れたときに音量が自動的に調節されます。	必要に応じて、音量を上げてください（6 ページ）。
サラウンド感が得られない	ステレオ再生が選ばれている。	サラウンド再生に切り替えてください（7 ページ）。
	音量が小さい。	音量を上げてください（6 ページ）。
	テレビまたは再生機器が常に 2 チャンネル（PCM など）で出力するように設定されている。	テレビまたは再生機器の音声出力設定を変更してください。
雑音が入る	デジタル機器や高周波機器がサウンドバーの近くに置かれている。	該当機器をサウンドバーから離してください。

□ リモコン操作

症状	原因	対策
サウンドバーを操作できない	操作範囲から外れている。	操作範囲内で操作してください（6 ページ）。
	乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください（6 ページ）。
	サウンドバーのリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明またはサウンドバーの向きを変えてください。
テレビのリモコンでテレビを操作できない	テレビのリモコン受光部がサウンドバーで隠れている。	テレビリモコンリピーター機能を使用するか（11 ページ）、サウンドバー脚部を取り外してテレビのリモコン受光部が隠れないようにしてください（4 ページ）。
	テレビ本体またはテレビのリモコンに問題がある。	テレビの取扱説明書をご覧ください。
テレビリモコンリピーター機能を使ってテレビを操作できない	テレビリモコンリピーター機能が無効になっている。	テレビリモコンリピーター機能を有効にしてください（11 ページ）。
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。（赤外線リモコンでも対応していない場合があります。）	この場合はテレビリモコンリピーター機能を利用できません。テレビのリモコン受光部が隠れないようにサウンドバーを移動し、テレビリモコンでテレビを直接操作してください。
	サウンドバーとテレビの距離が遠すぎる、または近すぎる。	サウンドバーを移動して、テレビリモコンリピーターとテレビ（リモコン受光部）の距離を調節してください（11 ページ）。 必要に応じて、サウンドバー脚部の取り外し、取り付けを行ってください（4 ページ）。
	サウンドバーとテレビの間に障害物（ケーブルなど）がある。	サウンドバーとテレビの間の障害物を取り除いてください。
テレビリモコンを学習させることができない	学習させたいボタンを押している長さが短すぎる。	1 秒以上押し続けて 1 秒以上離す操作を 2 ～ 3 回繰り返してください（10 ページ）。
	赤外線信号以外のリモコンを使用している。（赤外線リモコンでも対応していない場合があります。）	この場合は学習機能を利用できません。付属のリモコンで操作してしてください。
	テレビリモコンを適切な位置で操作していない。	適切な位置で操作してください（10 ページ）。
	テレビリモコンの乾電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	サウンドバーのリモコン受光部に日光や強い照明が当たっている。	照明またはサウンドバーの向きを変えてください。
	テレビ画面の光がリモコン信号を妨害している。	テレビの電源を切った状態で、テレビのリモコン信号をサウンドバーに学習させてください（10ページ）。
テレビリモコンでサウンドバーの音量を上げると、テレビから音声が出力される（学習機能使用時）	テレビの音声出力が有効になっている。	テレビ側の設定で、テレビ（内蔵スピーカー）の音声出力を無効にしてください。テレビに該当する設定がない場合は、以下の方法をお試しください。 - お手持ちのヘッドホン、変換プラグなどをテレビのヘッドホン / イヤホン端子に接続する。 - テレビの音量を最小にする。
サウンドバーとテレビの電源が逆になる（例：サウンドバーの電源を入れるとテレビの電源が切れる）（学習機能使用時）	テレビリモコンをサウンドバーに学習させた際に、テレビの電源が入っていた。	テレビ本体の電源ボタンとサウンドバー前面の ⏻（電源）ボタンで両方の電源を入れてから、テレビリモコンの電源ボタンでテレビとサウンドバーの電源を切ってください。

□ iPod/ パソコン（トランスミッター使用時）

症状	原因	対策
無線接続ができない（トランスミッターの緑色ランプが消灯している）	iPod がトランスミッターにしっかりと接続されていない。	iPod をトランスミッターに接続し直してください。
	トランスミッターに接続している iPod のバッテリー残量がなくなった、または極端に少ない。	iPod を充電してください（8 ページ）。
	付属の USB ケーブルがトランスミッター（またはパソコン）にしっかりと接続されていない。	USB ケーブルを接続し直してください。
	非対応のパソコン（オペレーティングシステム）を使用しているため、USB ドライバーが正しくインストールされていない。	対応パソコン（オペレーティングシステム）を使用してください（15 ページ）。
無線接続ができない（トランスミッターの緑色ランプが点滅している）	トランスミッターとサウンドバーのグループ ID が異なっている。	トランスミッター(9 ページ）とサウンドバー(11 ページ）を同じグループ ID に設定してください。
	C1 または C2 以外のグループ ID が設定されている状態で、パソコンの音声を再生しようとしている。	トランスミッター(9 ページ）とサウンドバー(11 ページ）のグループ ID を C1 または C2 に設定してください。
	非対応の iPod を使用しているため、認証されなかった。 （この場合、iPod を接続してから 30 秒後にトランスミッターの赤色ランプが点滅します。）	対応 iPod を使用してください（15 ページ）。対応 iPod を使用しているのに認証されない場合は、iPod をトランスミッターに接続し直してください。頻繁に発生する場合は、iPod をトランスミッターから取り外し、iPod の電源を入れ直してから再度接続してください。
	iPod とトランスミッター間に通信エラーが発生している。 （この場合、iPod を接続してから 30 秒後にトランスミッターの赤色ランプが点滅します。）	iPod をトランスミッターに接続し直してください。頻繁に発生する場合は、iPod をトランスミッターから取り外し、iPod の電源を入れ直してから再度接続してください。
	周囲に 2.4GHz 帯を使用している機器がある（電子レンジ、コードレス電話、Wi-Fi 機器など）。	該当機器をトランスミッターおよびヤマハ製機器から離すか、無線機器の電源を切ってください。無線ルーターをお使いの場合は、ルーターのチャンネルを端のチャンネル（1ch、13ch など）に設定してください。

無線接続が確立されているのに、サウンドバーから音が出ない	サウンドバーの音量が小さい。	音量を上げてください（6 ページ）。
	サウンドバーが消音されている。	消音を解除してください（7 ページ）。
	サウンドバーの入力がトランスミッター（YIT）になっていない。	入力をトランスミッター（YIT）に切り替えてください（6 ページ）。
	iPod にヘッドホンが接続されている。	ヘッドホンを iPod から取り外してください。
	パソコンの音声出力デバイスとしてトランスミッターが選ばれていない。	パソコンの音声出力設定を確認し、パソコンの音声出力デバイスとしてトランスミッターを選んでください。（トランスミッターの表示名はオペレーティングシステムにより異なります。）
iPod の音がサウンドバーから出ない	iPod がトランスミッターにしっかりと接続されていない。	iPod をトランスミッターに接続し直してください。
iPod とサウンドバーの音量が同期しない	iPod がトランスミッターにしっかりと接続されていない。	iPod をトランスミッターに接続し直してください。
音が途切れる（トランスミッターの緑色ランプが点滅している）	トランスミッターがサウンドバーから離れすぎている。	トランスミッターをサウンドバーに近づけてください。
	トランスミッターの電波が人体や金属、壁などで遮られている。	電波が遮られないように、トランスミッターの位置を調整してください。
	周囲に 2.4GHz 帯を使用している機器がある（電子レンジ、コードレス電話、Wi-Fi 機器など）。	該当機器をトランスミッターおよびヤマハ製機器から離すか、無線機器の電源を切ってください。無線ルーターをお使いの場合は、ルーターのチャンネルを端のチャンネル（1ch、13ch など）に設定してください。
iPhone の着信音がサウンドバーから出力される	iPhone をトランスミッターに接続している際に着信があった。	着信音を出力したくない場合は、iPhone をマナーモードに設定してください。
Wi-Fi 機器の通信が不安定になる	トランスミッターの電波が Wi-Fi 通信に干渉している。	トランスミッターを Wi-Fi 機器から離してください。頻繁に発生する場合は、iPod（またはパソコンと接続した USB ケーブル）をトランスミッターから取り外し、しばらく待ってから接続し直してください。

主な仕様

サウンドバー / サブウーファー

項目		サウンドバー（YAS-CU201）	サブウーファー（NS-WSW40）
アンプ部	実用最大出力	30W+30W	50W、ダイナミックパワー 100W
スピーカー部	形式	密閉 / 非防磁型	アドバンスド・ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー方式 / 防磁型
	ユニット	5.5cm コーン× 2	16cm コーン× 1
	再生周波数帯域	150Hz ～ 20kHz	35Hz ～ 150Hz
入力端子	光デジタル	2個（TV、BD/DVD）	—
ワイヤレス部	周波数帯域	2.4GHz 帯	
	通信距離	約 20m（妨害のないとき）	
総合	電源電圧	AC 100V、50/60Hz	
	消費電力	17W	30W
	待機消費電力	2.0W 以下	—
	寸法（幅×高さ×奥行き）	886 × 98 × 121mm	290 × 292 × 316mm
	質量	3.1kg	8.3kg

トランスミッター

項目	トランスミッター（YIT-W12TX）
対応 iPod/iPhone/iPad * 2012 年 6 月現在	iPod touch (1st, 2nd, 3rd and 4th generation) iPod nano (3rd, 4th, 5th and 6th generation) iPhone 4S, iPhone 4, iPhone 3GS, iPhone 3G, iPhone iPad (3rd generation), iPad 2, iPad
対応パソコン（オペレーティングシステム） * 2012 年 6 月現在	Windows 7、Windows Vista、Windows XP Mac OS X（10.6 以降）
消費電力	0.3W 以下
許容通過電流	2.1A 以下
接続端子	ドックコネクタ、Micro USB
サンプリング周波数	48kHz（iPod/iPhone/iPad 接続時） 32kHz、44.1kHz、48kHz（パソコン接続時）
周波数帯域	2.4GHz 帯
通信距離	接続するヤマハ製機器の取扱説明書をご覧ください。
伝送遅延	グループ ID（A）：12msec、グループ ID（C）：50msec
寸法（幅×高さ×奥行き）	40 × 38.5 × 10mm
質量	10.3g

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

AIR SURROUND XTREME

本機はヤマハ独自のバーチャルサラウンド技術「AIR SURROUND XTREME」を搭載しています。
定位感に優れた高品位な 7.1ch サラウンド再生を本体 1 台のみで実現します。

UniVolume

「ユニボリューム」「UniVolume」は、ヤマハ株式会社の商標です。

AirWired

「エアワイヤード」「AirWired」は、ヤマハ株式会社の商標です。

DOLBY DIGITAL

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。
Dolby、ドルビー、PRO LOGIC およびダブル D 記号 は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts Digital Surround

DTS および DTS Digital Surround はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。

Made for iPod iPhone iPad

「Made for iPod」、「Made for iPhone」、「Made for iPad」とは、それぞれ iPod、iPhone または iPad 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパーによって認定された電子アクセサリーであることを示します。
アップルは、これらの機器操作または、安全規制基準に関する一切の責任を負いません。本機を iPod、iPhone または iPad と使用する場合、無線通信の性能に影響する場合があります。

iPad、iPhone、iPod、iPod nano、iPod touch は、米国およびその他の国々で登録されている Apple Inc. の商標です。

Windows™

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Windows XP、Windows Vista、Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標、または商標です。

安全上のご注意

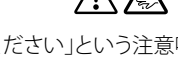
ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



「ご注意ください」という注意喚起を示します。



「〜しないでください」という「禁止」を示します。



「必ず実行してください」という強制を示します。

■「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告 この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意 この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**
- **異常に高温になる。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



禁止

電源コードを傷つけない。

- **重いものを上に載せない。**
- ステープルで止めない。
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ず実行

必ず AC100V（50/60Hz）の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。



禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。



禁止

電池を加熱・分解したり、直射日光にさらしたり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

分解禁止



分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置



水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

（サウンドバーの周囲に左右 1cm、上 5cm、背面 5cm 以上のスペースを確保する。サブウーファーの周囲に左右 20cm、上 20cm、背面 20cm 以上のスペースを確保する。）

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。



禁止

医療機関の屋内など医療機器の近くで使用しない。

電波が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

必ず実行

心臓ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離して使用する。

本機が発生する電波により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

必ず実行

十分な耐荷重強度のある、水平で安定した場所に設置する。

傾斜面や、水平でないところ、カーペット、畳などの安定しない面や変形する面などに設置しないでください。

必ず実行

ブラウン管を使用したディスプレイから離して設置する。

色むらが起きることがあります。

使用上のご注意

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

お手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源 / 電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

必ず実行

本機を主電源から完全に切り離すには、電源プラグをコンセントから抜く。

本体の ⏻ ボタンでシステムオフ状態にしても、本機はまだ通電状態にあります。

電池

必ず実行

電池は極性表示（プラス+とマイナス−）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

電池は幼児の手の届かない所に保管する。

口に入れたりすると危険です。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

長時間使用しない場合は、電池を電池ケースから抜いておく。

電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本機を損傷するおそれがあります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外し、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

必ず実行

あおむけや横倒しには設置しない。

故障やけがの原因となることがあります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばや車内など）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

無線ネットワークを使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線ネットワーク機器の近くへの設置を避ける。
遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。

注意

機器を接続する場合は、接続する機器の電源を切る。
突然大きな音が出たり、感電したりすることがあります。

必ず実行

工事はお買上げ店または専門の工事業者に依頼する。
工事は技術と経験が必要です。不充分な取付けは、本機が落下して、けがをする原因になります。お客さまによる工事は一切行わないでください。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

環境温度が急激に変化する場所では使用しない。
本機に結露が発生することがあります。正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

ポート（開口部）には手を入れない。
感電やけがの原因となることがあります。

必ず実行

外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続する。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

リモコン

禁止

水やお茶などの液体をこぼさない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。感電の原因になります。

禁止

落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
故障の原因になります。

禁止

下記のような場所に置かない。
- **風呂場の近くなど、湿度が高いところ**
- **暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ。**
- **極端に寒いところ**
- **ほこりの多いところ**

火災や故障の原因になります。

お手入れ

必ず実行

お手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

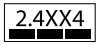
禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

本機を使用して iPhone を充電している際、本機が iPhone の電波に影響を及ぼす場合があります。また本機の電波と iPhone の電波はお互いに干渉する場合があります。もし通話時に不具合を感じた際は、iPhone を本機から取り外してご使用ください。

本製品は、電波法に基づく技術基準適合証明及び電気通信事業法に基づく技術基準適合認定を受けた通信機器を内蔵しております。

本機の無線方式について



「2.4」	2.4GHz 帯を使用する無線設備
「XX」	変調方式はその他の方式
「4」	想定干渉距離が 40m 以内
■■■	全帯域を回避可能

無線に関するご注意
この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

音を楽しむエチケット
- 楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。
- 適当な音量を心がけ、窓を閉めるなどして使用しましょう。
- 音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

九州、沖縄、中国、四国、近畿、東海、北陸地域にお住まいのお客様
(06) 6465-0367

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター
〒554-0024 大阪市此花区島屋6-2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX (06) 6465-0374

名古屋サービスステーション
〒454-0832 名古屋市中川区清船町4丁目1-11
ピアノ運送(株)名古屋営業所1F
FAX (052) 363-5903

九州サービスステーション
〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092) 472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、
またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
製品に添付されている保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により
有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、
一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する
部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1



ヤマハ株式会社

© 2012 Yamaha Corporation

Printed in Indonesia ZD38410